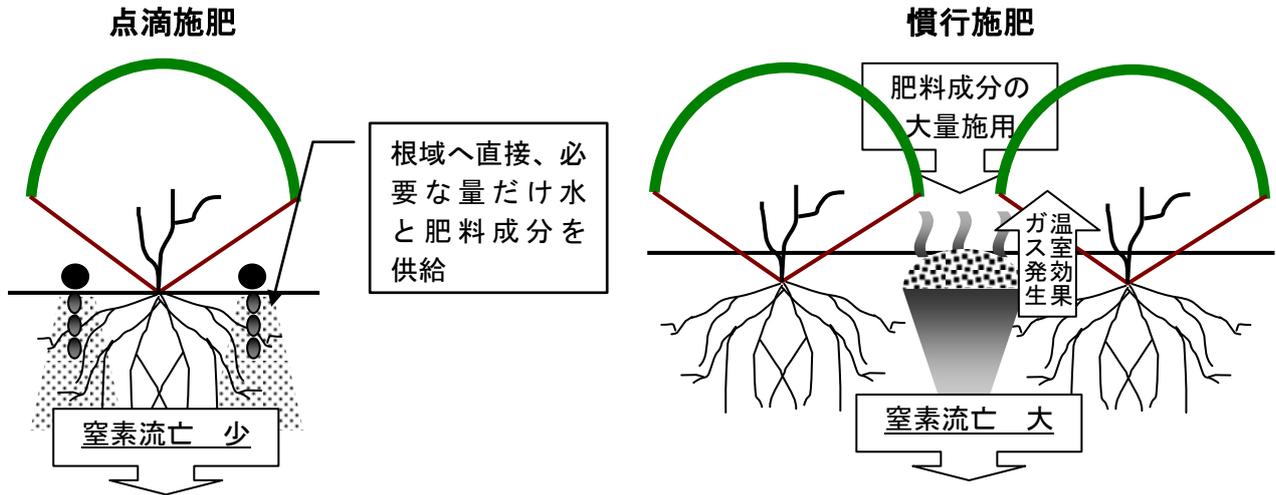


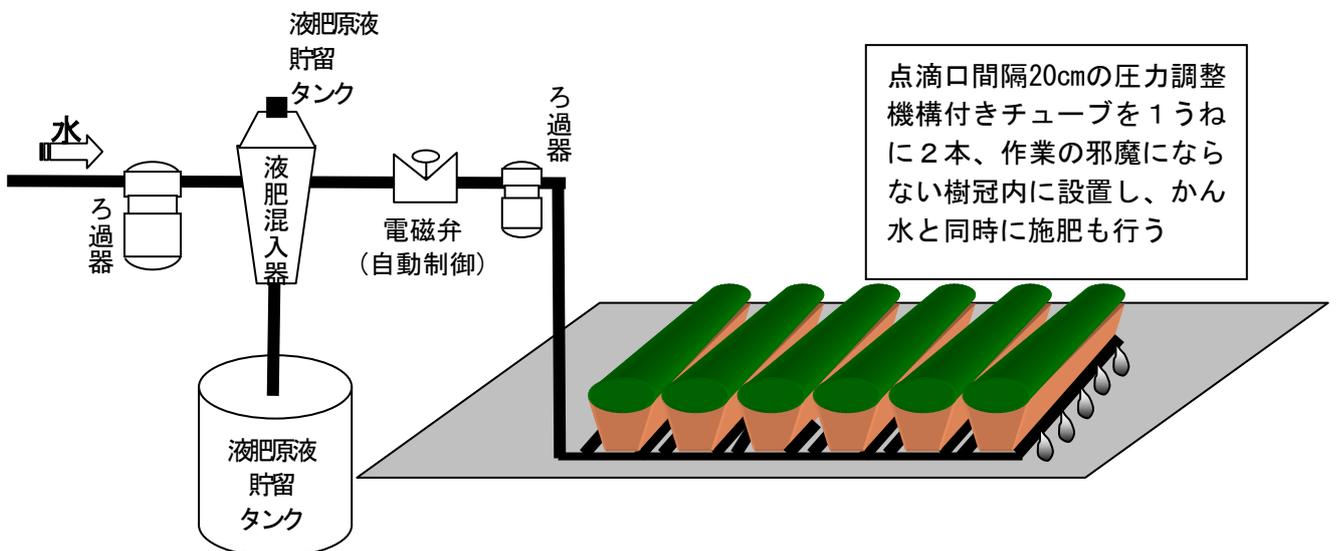
(12) 茶園における点滴施肥について

点滴施肥は気象変動にも対応した効率的施肥法で、窒素施用量の削減によって環境負荷の軽減にもつながる技術でもある。本県においても平成22年度から県営畑地帯総合整備事業による本格的な導入が始まり、平成26年度末には21.3haの整備が完了した。以下にその概要を述べる。

ア 点滴施肥と慣行施肥のイメージ図



イ 点滴施肥システムの概要



ウ 慣行施肥との比較

項目	導入効果	備考
収量	同等～多くなる	
アミノ酸	多くなる	
アミノ酸/タンニン比	高くなる	高いと品質良い
品質（官能）	同等～良くなる	
窒素の流亡	少なくなる	施肥量少ないため
亜酸化窒素の発生	少なくなる	温室効果ガス
施肥効率	良くなる	
施肥労力（時間）	少なくなる	自動制御による
設備費	多くなる	混入器、配管、点滴チューブ等
肥料費	少なくなる	施肥量減による
初期投資	大きい	

エ 施肥方法

月ヶ瀬桃香野地区現地における標準的な施肥例は以下のとおりである。

使用する液肥は尿素を主体とした液体肥料（例：窒素：リン酸：カリ＝12-5-7）か、尿素と第1リン酸カリ等の固形肥料の単肥を必要量配合している。

項目	数値等	備考
施肥窒素量 （年間）	液肥 50kg/10a 有機質肥料 20kg/10a 計 70kg/10a	液肥施用は、二番茶前：二番茶後＝2:1で行う。 有機質肥料は春・秋肥として（各 10kg/10a） 夏～秋肥時に苦土石灰 100kg/10a 施用
施肥期間	3/25 頃～10 月末まで （約 220 日間）	配管等の凍結の心配がなくなってから生育停止まで。
点滴かん水量	1.5t/10a	乾燥の状態により増減あり。
点滴かん水中の 標準的な窒素濃度	開始～二番茶摘採まで 200ppm 前後	日量窒素施用量約 280g/10a 約 120 日間 ただし、かん水量に応じ 100～400ppm の範囲内で調整。
	二番茶摘採後～ 100ppm 前後	日量窒素施用量約 170g/10a 約 100 日間 ただし、かん水量に応じ 50～200ppm の範囲内で調整。

注) リン酸・カリについては、使用する液肥種類により変わるが、窒素濃度の 1/2～1/3 程度を目標に施用。

オ 留意点

- * 冬期は凍結対策として、水抜きを徹底及び液肥混入器の取り外しを行う。
- * 夏期は、混入器やストレーナー、タンク周辺の日除けを行う等、紫外線による劣化防止対策を行う。
- * 苦土石灰や堆肥等の有機物は別途補給が必要である。
- * 点滴チューブは寒暖により伸縮する（約 1%）ため、畝からはみ出た部分を乗用型摘採機等で傷つけないよう注意する。